

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名：植物ホルモン間クロストークと化学・生物学的制御技術を利用したバイオマス高生産性植物の開発
2. 研究代表者： 浅見 忠男（東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授）
3. 中間評価結果

本研究は植物ホルモン間のクロストークを解析し、その成果を成長促進、分げつ制御、根寄生雑草の管理という応用へと展開し、二酸化炭素資源化を目指す研究である。多くのサブテーマを同時に行っているがそのほとんどが計画通りに進捗していると評価される。特に、ストリゴラクトンの受容体並びに、そのリガンドの同定とその共結晶の構造を決定したこと、ストリゴラクトン、ジベレリン、ブラシノステロイド 3 种植物ホルモンの生理作用ネットワークの存在を明らかにしたことは世界的に優れた成果であるといえる。また、この成果を元に根寄生雑草ストライガの自殺発芽を誘導する化合物群を創薬ターゲットとして世の中に提案しつつあることは二酸化炭素資源化に資するのみならず、社会・公共的価値の高い貢献である。これらの成果は、化合物と生物との双方から、関与する実体を明らかにする手法がとられている研究チームの強みを生かした成果であるといえる。競争の非常に激しい分野ではあるが、今後もチームの強みを生かし良い成果をあげるだけでなく、国内外の研究者と協力しこの分野を牽引していくことを期待する。